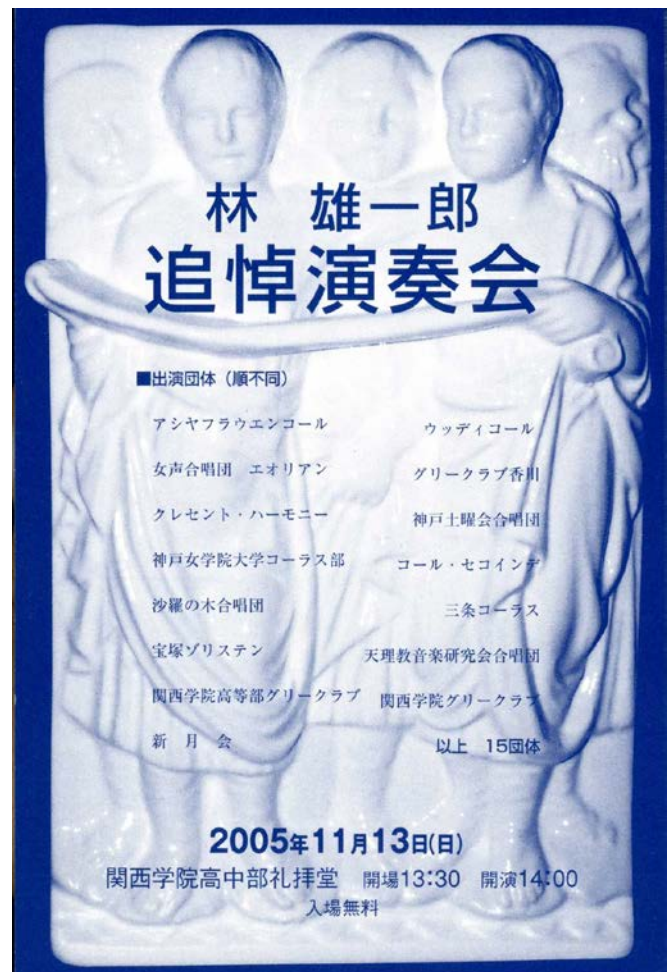


林雄一郎追悼演奏会【2005年(平成17年)11月13日】 関西学院高中部礼拝堂



林雄一郎先生からの薫陶 多田 武彦

私が初めて関西合唱コンクールの審査員を仰せ付かった砌、御礼かたがた林雄一郎先生のご自宅を表敬訪問した。先生は審査を勤める上での注意事項を懇切丁寧にご教示くださった後、何か質問は？とおっしゃったので、関西学院グリークラブの名演奏の淵源についてお尋ねした。初秋の爽やかな夜の風情を感じながら、先生はぼつぼつと話された。

「自分(林先生)も最初は、良い声で合唱すれば、それでいいと思っていた。しかし輸入レコードの名盤を何度も聴き分析していくうちに「音楽の三要素と、楽式論」の編み出す絶妙のアンサンブルこそ最大の眼目だということが判ってきた。このことを等閑にしてはたとえプロでも名演奏を実現出来ない。関学グリーの人たちは、このことを良く遵守してすばらしい伝統を築いてくれた。関学グリーの演奏を、技術一辺倒と揶揄する一部の批評家がいるが、『上辺だけの美辞麗句や、新味への口先だけの注文』をするだけでは、西洋音楽の構築性や真髓を語る資格は無い。多田君も、この原点を拳々服膺して名作名演の分析を続けながら、作曲・演奏指導・分析試聴に励んでほしい」と。

私の作品は、まだまだ、この林雄一郎先生からのご教示の域に達していない。しかし、このご薫陶のおかげで、何とか奇を衒わない正統的な作品を書き続けられたものと、心から感謝し続けている。

謹んで、楽聖・林雄一郎先生のご冥福をお祈りする。